



2025年1月28日

各 位

会 社 名 U B E 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 泉 原 雅 人
(コ ー ド 4 2 0 8 東 証 プ ラ イ ム 市 場)
問 合 せ 先 コ ー ポ レ ー ト コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 部 長 堀 江 周 子
(T E L . 0 3 - 5 4 1 9 - 6 1 1 0)

2030年の目指す姿の実現に向けたベーシック事業の構造改革に関するお知らせ

UBE株式会社（本社：東京都港区、社長：泉原雅人、以下「UBE」）は、本日開催の取締役会において、ベーシック事業の今後の構造改革の具体的な内容とスケジュールについて決議しましたので、下記の通りお知らせします。

記

1. 経緯

UBEグループは、スペシャリティ化学の成長と地球環境への貢献を両輪とする成長を目指し、スペシャリティ事業への積極的な投資による事業拡大とベーシック事業の縮小・撤退・再構築に取り組み、グループとしての事業構造転換を進めています。

スペシャリティ事業においては、ポリイミド、分離膜、セラミックス（窒化珪素）、C1ケミカル（北米DMC・EMC）などの製造設備への投資や、ドイツLANXESS社からウレタンシステムズ事業の買収など、将来の成長に向けた拡大施策を着実に実施しています。他方ベーシック事業では、2022年5月に公表した中期経営計画「UBE Vision 2030 Transformation～1st Stage～」(以下、「現中計」)において、2030年を目途とするアンモニアの生産停止およびそれに先立つ国内カプロラクタムの生産縮小（2024年5月実施済み）を掲げ、検討を進めるとともに、可能な施策には既に着手してきましたが、中国企業の過剰供給等によりアジア市場を中心に足元の事業環境が想定を超えて大きく悪化し、今後の回復も見込み難いことから、海外を含めた事業構造改革（設備の停止による縮小・撤退）の一段の前倒しが喫緊の課題であると判断しました。

2. 停止する設備及び時期

(1) 日本（宇部ケミカル工場）

- アンモニアおよび関連する製品群は、生産停止時期を現中計の想定より2年強前倒しして2027年度末(2028年3月)とします。カプロラクタム（残存主要期系）及びナイロンポリマーは、足元の事業環境を踏まえてさらに早め、原料であるシクロヘキサノンを含め2026年度末(2027年3月)に生産を停止します。

- ・上記の結果、宇部ケミカル工場は、ポリイミド、分離膜、セラミックス（窒化珪素）、医薬、高純度化学薬品などスペシャリティ事業中心の生産・開発拠点になります。

(2) タイ

- ・アジアの中核会社である UBE Chemicals (Asia) Public Company Limited (以下、UCHA) において、2026 年度末(2027 年 3 月)までにシクロヘキサノン・カプロラクタム・硫安の生産は停止し、ナイロンポリマーは 2 系列の生産設備を 1 系列に縮小します。併せて UBE Fine Chemicals (Asia) Co., Ltd. (以下、UFA) においてシクロヘキサノンから副生する 1,6 ヘキサンジオール及び 1,5 ペンタンジオールの生産を停止します。
- ・上記の生産停止後も、UBE グループのタイ拠点では、UCHA がコンポジットの、UFA が高機能コーティング事業として PCD (ポリカーボネートジオール) の、また THAI SYNTHETIC RUBBERS COMPANY LIMITED がエラストマーの生産を継続・拡大していきます。なお上記方針について、UCHA は同社株主総会を開催し決定する予定です。

(3) スペイン

- ・欧州では、カプロラクタム、ナイロンポリマーの市場環境がアジアと比較して安定しており、また食品包装用途のナイロンポリマーは域内トップシェアを誇るため、欧州中核会社の UBE CORPORATION EUROPE S.A.U.では、リサイクルやバイオベースナイロン等環境貢献型製品の拡大を図りながら両製品の生産を継続します。一方、収益改善を図るため、顧客等との調整がつき次第、早急にシクロヘキサノン及び 1,6 ヘキサンジオール、1,5 ペンタンジオールの生産は停止する予定です。これにより欧州におけるカーボンニュートラル化実現も推進してまいります。

3. 期待する効果

- ・生産を停止あるいは縮小するアンモニア、カプロラクタムおよびナイロンポリマー等は、市況（損益）変動が大きく、収益性も低下し将来にわたって回復を見込み難い状況にあります。本構造改革により、これらの製品が UBE グループの業績に与える影響を抑制し、業績を安定化させるとともに、収益性を改善させることができます。
- ・アンモニア、カプロラクタムなど生産工程で温室効果ガス（GHG）を多く排出する設備の稼働を前倒し停止することにより、GHG の 2030 年度削減目標（2013 年度比 50%削減）は 2028 年度に達成することができます。

4. 業績に与える影響

- ・当該事業に係る減損損失等は、約 350 億円と見込んでおり、2025 年 3 月期に一括計上する予定です。（内訳：宇部ケミカル工場（UBE 単独） 約 100 億円、タイ拠点 約 250 億円）
- ・また、当該事業に係る設備の解体撤去費用は、現時点で約 300 億円と見込んでおり、会計基準に従い 2028 年 3 月期以降数年間に亘り工事の進捗に合わせて計上する予定です。
- ・2025 年 3 月期の業績予想につきましては、本日公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、配当方針・配当予想に変更はありません。2025 年 3 月期の年間配当金予想は、従来公表のとおり 110.00 円（中間配当金 55.00 円、期末配当金 55.00 円）です。

5. 今後の経営方針

今回の決定により、現中計において課題としていたベーシック事業の構造改革に目途を付けることができたと考えています。

本年5月公表予定の次期中期経営計画においては、UBEグループの企業価値の拡大に向けて、2030年のUBEグループが目指す姿とこれを実現するための行動計画を発表します。今回、今後の構造改革費用とスケジュールを明確化し、可能なものは一括計上した結果、自己資本は一時的に減少しますが、今後のスペシャリティ事業の安定的収益により、早期の回復を目指します。さらに2030年に向け、スペシャリティ事業への経営資源の積極投入の継続、グローバル経営の強化などの成長戦略に集中するとともに、DXの推進や人的資本の充実、地球環境問題への対応など、サステナビリティ経営の一層の進展を図ります。

以 上

参考①：ポートフォリオ区分

ポートフォリオ区分	対象事業
スペシャリティ事業	ポリイミド、分離膜、セラミックス、半導体ガス、セパレータ コンポジット、C1ケミカル、高機能コーティング、 医薬、フェノール樹脂
ベーシック事業	ナイロンポリマー、カプロラクタム・硫安、工業薬品 エラストマー、ポリエチレンフィルム、樹脂加工品

参考②：2025年3月期連結業績予想（2025年1月28日公表）及び前期連結実績

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
2025年3月期予想	490,000百万円	16,000百万円	20,000百万円	△17,500百万円
2024年3月期実績	468,237百万円	22,456百万円	36,333百万円	28,981百万円